

再生林の樹木、盆栽に

【川崎】森林再生プロジェクトを手がける環境ビジネスエージェンシー（東京・千代田、鈴木敦子社長）は静岡県熱海市の再生林の林床から自然に芽生えた樹木や草花を鉢植えにして首都圏の消費者に販売する事業を始めた。神奈川県や東京都など都会へ自然の息吹

を届ける。森の植木鉢は「里山BONSAI」というシリーズ



首都圏で販売

で、第1弾として関係する料込みで1万6200円。NPO法人環境リレーショ熱海の森はJR伊東線網ノズ研究所（東京・千代田）代駅の西方2キロにあり、が所有する熱海市の保安林広さは約7・5畝。かつて「熱海の森」の植物をヒノはコナラの若木が生い茂るキの丸太を彫り込んだ鉢に里山の森だったが、戦後ま植えて商品化した写真。もなく人の手が入らなくな植物はアラカシやヤブムラり、高木になったコナラがサキ、ナンテンなど3種ほ台風で倒れ土砂が流出。シど植えて表土に保水のためカが食べないシキミやヒサコケをつけた。鉢の直径はカキ、ヒイラギが陽光を遮る暗い森だったが、NPOは約60センチ。価格は税・送が伐採を進めた。